

住吉大社神輿渡御祭の調査研究

大阪の夏祭りの最後を飾る住吉祭のうち、住吉大社から堺市の宿院頓宮への神輿の「おわたり」について、堺市と住吉大社と連携して総合調査を行っています。



住吉祭・復活した大神輿（2016年）

活動の概要

目的	堺市の歴史的風致としての神輿渡御の歴史的・文化的価値の再発見と地域づくり
連携メンバーおよび役割	堺市文化観光局文化部文化財課…プロジェクトの統括・調整、資料・情報の提供、成果公開事業の共催 堺市地域文化遺産活性化実行委員会…事業の策定、成果出版物の刊行 住吉大社…資料・情報の提供・協力、成果公開事業の共催・協力 宿院頓宮…資料・情報の提供・協力 堺市博物館…資料・情報の提供・協力 堺市立町家歴史館山口家住宅／清学院…成果公開事業の会場提供 関西大学なにわ大阪研究センター 関西大学文学部教授 黒田一充…中世都市堺および住吉祭の調査・記録作成と成果の発信
活動地域	大阪府大阪市住吉区／大阪府堺市堺区
活動期間	2014年4月～（継続中）
費用	文化庁文化芸術振興費補助金「文化遺産を活かした地域活性化事業」／堺市と本学との地域連携事業助成

連携の経緯

堺市の「歴史的風致維持向上計画」として策定された「神輿渡御祭にみる歴史的風致」整備にあたり、文部科学省の助成事業として大阪の文化遺産研究の実績を有し、住吉大社とも連携関係にある関西大学大阪都市遺産研究センターとの連携によって事業を推進したいとする堺市文化観光局文化部文化財課および同市地域文化遺産活性化実行委員会からの要請による。

解決すべき課題

- 中世都市以来の文化遺産を有する堺における地域アイデンティティの喪失
- 堺市民全体での歴史・文化都市としての魅力の共有と未来への継承



堺市役所ロビーでのパネル展

堺市博物館での絵画資料調査

大学の役割

中世都市堺は、豊臣秀吉の大坂築城以前に生成された大阪の文化遺産の宝庫であるにもかかわらず、現在は大阪のベッドタウン化が進み、その歴史・文化による地域のアイデンティティが希薄となりつつある。住吉大社から堺の宿院頓宮への神輿渡御は、16世紀の宣教師の記録にも登場し、堺の歴史と密接な関係をもつ祭礼であるが、近年では、神輿の担ぎ手が減少し、堺側にあつては、本学人間健康学部（堺キャンパス）の学生有志の参加によって維持されており、大学の地域貢献として地元では高く評価されている。本プロジェクトでは、これまで本格的な調査・研究がほとんどなされていない住吉祭の歴史を、特に堺とのつながりを中心に学問的に検証することを通じて、本学と堺市との新たな連携の進展と、海とともに歩んできた堺の人びとの信仰心の解明が期待される。

住吉祭は、7月の海の日の神輿洗神事から8月1日の神輿渡御・還御までの一連の神事からなる。2014年度には、基礎的調査としてすべての現行神事についての調査・記録作成を行い、その成果を報告書として刊行した。2015年度は、住吉祭の記述がある古代からの文献資料をまとめた報告書を刊行した。さらに、堺市博物館などに所蔵される絵画・文献資料の調査や宿院頓宮での聞き取り調査を進めている。また、住吉祭期間中には、堺市役所1階ロビーと渡御行列が通過する地点にある堺市立町家歴史館山口家住宅で、前年度に引き続き、成果公開としてパネル展を開催した。いずれも堺市文化観光局と連携し、住吉大社と宿院頓宮から全面的な協力を得て推進されている。



山口家住宅でのパネル展

成果

- 祭礼景観の調査・研究による中世都市堺の歴史・文化の再発見
- 住吉祭の総合調査による「なにわ・大阪」の文化遺産の解明
- 対象地域（住吉大社・堺市）での成果の発信
- 報告書などの冊子媒体での成果の発信

今後の展望

- 各地の所蔵機関と連携した絵画・文献資料の調査
- (1)の成果公開として堺市内での展示会の開催
- 住吉祭を核とする歴史・文化都市としての堺の地域活性化

研究者の紹介

文学部教授
黒田 一充
(くらた かずみつ)

専門は日本民俗学、庶民信仰史。とくに日本各地の祭祀や民俗信仰を中心に、儀礼や組織を歴史的な視点から研究している。祭りや民俗行事の現地調査とともに、地元の記録や文書類を使った分析を試みている。

現場の声

・堺市文化財担当者

専門の先生の指導のもと、祭礼調査や聞き取り調査に学生さんが参加し、歴史の掘り起こしをおこなうことで、住吉祭・神輿渡御の歴史の奥深さが注目され、まちづくりに活かそうという気運も生まれつつあります。